

Web Journal『年金研究』執筆要領

目次

1	原稿作成にあたって	3
2	原稿の形式	3
2.1	用紙サイズ	3
2.2	1 ページ当たりの文字数.....	3
2.3	文字の書式	3
2.4	句読点の利用.....	3
2.5	数字の表記方法.....	4
2.6	数式の表記方法.....	4
2.7	アルファベットの表記方法	4
2.8	引用文の表記方法	4
3	論文の構成	5
3.1	論文タイトル.....	5
3.2	要旨	5
3.3	本文の階層構造.....	5
3.3.1	3段階以内の見出し.....	5
3.3.2	章・節・項の区切り.....	6
3.3.3	項より下位の区分	6
3.4	注釈	6
3.5	図表	6
3.5.1	図表の表題.....	6
3.5.2	図表の注釈.....	7
3.5.3	図表の配置.....	7
3.6	参考文献.....	7
3.6.1	参考文献の記載.....	7
3.6.2	本文での引用.....	7
4	参考文献の記載方法	8
4.1	言語ごとの分類.....	8

4.2	記載方法	8
4.2.1	記載事項及び記載順序	8
4.2.2	執筆者の氏名	9
4.2.3	論文名や書籍名等	9
4.2.4	インターネット上の参考文献	10
4.3	記載例	10
5	その他	11
5.1	執筆者情報の掲載禁止	11
5.2	原稿様式雛型	11

1 原稿作成にあたって

原稿作成は原則として Microsoft 製品の Word または Excel を用いて行うこと。Word を用いて本文記述を行う前提で、この執筆要領を定めている。

2 原稿の形式

2.1 用紙サイズ

- (1) A4 縦の用紙に横書きで記述する。
- (2) ページ下方の中央部分にページ番号を記載する。

2.2 1 ページ当たりの文字数

- 1 ページ当たりの行数は 40 行、1 行当たりの文字数は 35 文字とする。

2.3 文字の書式

- (1) 日本語要旨及び本文の記述フォントは明朝体 12 ポイントを選択する¹。

論文タイトルの記述フォントはゴシック体 18 ポイントを選択、スタイルは太字にして記載する。論文中の見出し部分はゴシック体 12 ポイントを選択し、スタイルは太字にする。脚注は明朝体 10.5 ポイントで記述する。

Word 利用時には、明朝体については「游明朝 (本文のフォント)」や「MS 明朝」の利用、ゴシック体については「游ゴシック Light(見出しのフォント)」や「MS ゴシック」の利用が考えられる。候補となるフォントは複数あるが、論文全体で統一的なフォント選択を行うこと。

- (2) 図表については、書式の要請は行わない。但し、読みやすさに留意して描画や作表を行うこと。

2.4 句読点の利用

本文記述に際しては、句点「。」及び読点「、」を利用する。

¹明朝体を用いることが一般的でない言語（文字）を用いる場合は、原稿全体で統一的な選択が求められる点に留意して、言語ごとに独自にフォント設定を行うこと。例えば、キリル文字では「Times New Roman」（例. страховая пенсия）、ハングル文字では「Batang」（例. 국민연금）の選択が考えられる。

2.5 数字の表記方法

- (1) 本文中の数字は、原則として算用数字を利用する。熟語、成句や固有名詞などを表記する場合は漢数字を用いる。また、概数を示す場合も漢数字を用いる。章の見出し番号を除き（3.3.1 参照）、原則として半角文字で記述する。

【例 1】 1 つ、2 点、第 3、平成 4 年、5 世紀

【例 2】 一定、第 2 四半期

【例 3】 三寒四温、四捨五入、五臟六腑

【例 4】 数十日、数百人、百数十ページ

- (2) 兆・億・万・千の単位語を入れて表記する場合は、位取りカンマは省略する。

【例 5】 1 億 2550 万 2 千人

- (3) 区別が付きにくい活字を使用し、文脈等を踏まえても区別が付きにくい状態が残る場合はルビをふること。

【例 6】 ^{オー}0 と ^{ゼロ}0、^{エル}1 と ^{イチ}1

2.6 数式の表記方法

- (1) 原則として変数はイタリック表示とする。

【例 1】 $x, y, z, X, Y, Z;$

- (2) ベクトルはゴシック表示にする。

【例 2】 $a, b, c; A, B, C;$

- (3) 数式を 1 行に詰めすぎないようにする。
(4) 複雑な添え字 (suffix) は、できるだけ避ける。

2.7 アルファベットの表記方法

本文中のアルファベットは、原則として半角文字で記述する。

2.8 引用文の表記方法

和文の引用文には「」『』を利用し、クォーテーションマーク（‘ ’ または “ ”）の利用は避ける。

3 論文の構成

3.1 論文タイトル

論文タイトルは本文の冒頭、中央に配置する。

3.2 要旨

論文タイトルの記載行から2行空け、「要旨」と記載し、中央に配置する。記述フォントはゴシック体 12 ポイントを選択、スタイルは太字にする。「要旨」と記した行から改行して、日本語要旨の記載を行う。

日本語要旨の最終行から改行して、2行空け、本文の記載を始める。

3.3 本文の階層構造

3.3.1 3段階以内の見出し

原則として見出しは3段階以内で整理する。ここでは上位から章、節、項と呼称して説明を行う。

章の表題付番は「1 2 3 …」とする。1桁の数字利用の場合は全角で入力し、2桁以上の数字利用の場合は半角とする。章番号の次に全角で空白を挿入し²、見出しを表記する。

節の見出し付番は章ごとに行い、全て半角で記述する。章番号を記し、ピリオドを付して章ごとの通し番号を付す。節ごとの通し番号の次に全角で空白を挿入し、見出しを表記する。

項の見出し付番は節ごとに行い、全て半角で記述する。節番号を記し、ピリオドを付して節ごとの通し番号を付す。項ごとの通し番号の次に全角で空白を挿入し、見出しを表記する。

【記載例】

- 1 はじめに
- 2 先行研究
 - 2.1 国内の先行研究
 - 2.2 海外の先行研究

² 見出し番号と見出しとの間に半角分の空白しかない場合、見出しの冒頭の文字が半角ならば読みにくい。「2.2 1 ページ当たりの文字数」参照。

- 2.2.1 米国での先行研究
- 2.2.2 イギリスでの先行研究
- 2.2.3 その他の国々での先行研究
- 3 利用するデータ
- ...
- 9 考察
- 10 まとめ

3.3.2 章・節・項の区切り

ある章の最終行の次に 2 行空け、次の章の見出しを設定する。章見出しの次に節見出しがつづく場合は、空白行を入れずに連続してつづける。同様に、節見出しの次に項見出しがつづく場合は、連続してつづける。

ある節の次に同じ章の節がつづく場合は、節の最終行の次に 1 行空ける。ある項の次に同じ節の項がつづく場合は、項の最終行の次に 1 行空ける。

3.3.3 項より下位の区分

項より下位で何らかの区分を行う場合は、独自に「(1) (2) (3) …」や「a) b) c) …」等の設定を行う。論文全体で付番方法を統一する。例えば、ある項で「(1) (2) (3) …」を用いながら、別の項で「a) b) c) …」を用いることがないようにすること。

本文中に語や箇条書きの文などを列記する場合も同様とする。

3.4 注釈

注釈は脚注とし、注釈を付す箇所の右上に上付き文字で注釈番号を挿入する。注釈番号は論文全体での通し番号とし、数字のみを使用する。「脚注 1 脚注 2 脚注 3」や「1) 2) 3)」のような記述は行わないこと。

3.5 図表

3.5.1 図表の表題

図表については、図と表とで別々に論文全体での通し番号を付番する。「図 1 図 2 図 3 …」や「表 1 表 2 表 3 …」のように付番し、番号の次に空白を挿入して表題を示す。図表の上部に表題を配置する。

【記載例】

図 1 設問別正解率（%、男女別）

表 1 設問別の 3 択分布状況および正解率一覧

3.5.2 図表の注釈

図表ごとに注釈を付す。図表の出典については、必ず記載すること。

【記載例 1】

出典. 厚生労働省年金局「年金部会（2022年10月25日開催）」資料 2

【記載例 2】

注 1. 各年の厚生労働省「国民生活基礎調査」結果を用いて、独自に作表を行った。

注 2. 2020年に「国民生活基礎調査」は実施されなかったため、2019年値は不明である。

3.5.3 図表の配置

原則として、図表は本文中に配置する。図表の説明文を読みながら、図表を確認することが容易になるような位置へ図表を配置するように努めること。

3.6 参考文献

3.6.1 参考文献の記載

引用を行った文献を参考文献とする。論文の末尾に「参考文献」と見出しを設け、その下に参考文献の情報を記載する。「参考文献」の見出しは中央に配置する。

記載方法については「4 参考文献の記載方法」を参照すること。

3.6.2 本文での引用

本文で参考文献を引用するに当たっては、「執筆者姓(論文発行の西暦年)」の表記方法を採用する。参考文献のページ番号を追記して参考箇所を明示したいと考える場合は、ページ番号を追加的に記載する方法を採用してもよい。

執筆者が2人の論文については、両者の姓を記す。日本語、中国語またはハンゲル語（以下「日本語等」という。）の論文ならば「(執筆者1の姓)・(執筆者2の姓)(論文発行の西暦年)」とし、欧米語の論文ならば「(執筆者1の姓) and (執

筆者 2 の姓) (論文発行の西暦年)」と記す。

3 人以上の執筆者による論文の場合は筆頭執筆者の姓を記す。日本語等の論文ならば「(筆頭執筆者の姓)ほか(論文発行の西暦年)」、欧米語の論文ならば「(筆頭執筆者の姓) et al. (論文発行の西暦年)」と記す。

【記載例 1】 高山 (2004)、高山・白石 (2017a)、佐藤ほか (2017)

【記載例 2】 高山 (2004, p.30)、高山・白石 (2017a, pp. 5-7)

【記載例 3】 Sato (2017), Oshio and Usui (2018), Coronado et al. (2000)

4 参考文献の記載方法

4.1 言語ごとの分類

日本語、英語・独語・仏語、ロシア語、中国語、韓国語またはその他の言語の別に参考文献を分類し、この言語の順に参考文献を列記する。論文と書籍とを別に分類することは行わない。

日本語の参考文献は執筆者氏名の五十音順に、外国語文献は執筆者氏名 (family name が先) のアルファベット順に列記する。1 つの参考文献情報の記載が 2 行以上に渡る場合は、2 行目以降を 1 字下げて記載する (ぶら下げ 1 字の設定)。

4.2 記載方法

4.2.1 記載事項及び記載順序

参考文献情報ごとに、論文ならば、

- ・ 論文執筆者の氏名
- ・ 論文発行の西暦年。「()」で囲んで記載する。
- ・ 論文名
- ・ 論文掲載の書籍名または雑誌名
- ・ 巻番号及び号番号
- ・ 掲載ページの最初と最後のページ番号

の順序で、上記事項を列記する。

単行本ならば、

- ・ 書籍執筆者の氏名
- ・ 第一刷発行の西暦年。「()」で囲んで記載する。

(・ 書籍の執筆代表者または編著者)

- ・ 書籍名
- ・ 出版社名

の順序で列記する。複数の執筆者による書籍については、書籍の執筆代表者または編著者も記載する。また、参考箇所が把握できるようにする。例えば、特定の章が参考箇所であるならば、章の名称を論文名とみなして書籍名の前に記す。あるいは、書籍名の次に参照ページのページ番号を記す。海外の出版社が刊行した書籍である場合は、出版社所在の国名や地域名を追記する。

「, (半角のカンマ)」を用いて各項目を区切る。但し、()、「」または『』利用で項目の区切りが明確である場合は、「, (半角のカンマ)」は省略する。「.(半角のピリオド)」を用いて参考文献情報ごとの記載終了を示す。

4.2.2 執筆者の氏名

日本語等による論文の場合、執筆者氏名は表記通りに示す。執筆者が複数人の論文では執筆者氏名を列記し、各執筆者の氏名を「・(中点)」で区切る。

欧米言語による論文の場合、執筆者の氏名は「姓(family name), 名(first name)の頭文字.」として表記を行う。執筆者が2人の論文については「(執筆者1の姓, 名の頭文字.) and (執筆者2の姓, 名の頭文字.)」とし、執筆者がn人ならば「(執筆者1の姓, 名の頭文字.), (執筆者2の姓, 名の頭文字.), … (執筆者(n-1)の姓, 名の頭文字.), and (執筆者nの姓, 名の頭文字.)」と記す。

同一執筆者による論文が複数ある場合は、発行年の若い順に並べる。更に同一の発行年の論文がある場合は、本文中での引用順に並べ、発行年の後にアルファベットを追記して区別する。本文中の引用部分でも発行年にアルファベットを追記して区別する。

4.2.3 論文名や書籍名等

論文名は日本語等の場合は「」で、欧米言語の場合は“ ”で囲む。書籍名または雑誌名が日本語等の場合は『』で囲み、欧米言語の場合はイタリックで表記する。

書籍や雑誌の特定を可能とするために、これらの巻番号や号番号を示す。「Vol. (巻の番号), No. (号の番号)」として記載することを原則とするが、特定が可能であるならば各論文が採用している方法を用いる等、他の表記方法を用いても

よい。

4.2.4 インターネット上の参考文献

- (1) インターネットから取得した参考文献については、4.2.1 を基礎として参考文献情報を整理、参考文献情報の最終部分「. (半角のピリオド)」の後で改行し、次の行へ URL と当該 URL へアクセスした最終年月日とを記載する。最終年月日は「()」で囲む。
- (2) ハイパーリンクを付けないようにして、URL の記載を行う。

4.3 記載例

参考文献

小塩隆士・浦川邦夫(2008)「第 6 章 公的年金による世代内再分配効果」貝塚啓明+財務省財務総合政策研究所『人口減少社会の社会保障制度改革の研究』中央経済社.

佐藤一磨・山本勲・小林徹 (2017)「定年退職は健康にどのような影響を及ぼすのか」慶応義塾大学, Panel Data Research Center Discussion Paper, DP2016-014.

<https://www.pdrc.keio.ac.jp/publications/dp/2327/> (2023.03.10)

高山憲之 (2004)『信頼と安心の年金改革』東洋経済新報社

高山憲之・白石浩介 (2017a)「配偶者控除見直しに関するマイクロシミュレーション (II)」『年金研究』No. 6, pp. 1-37.

https://www.nensoken.or.jp/wp-content/uploads/NKEN06_001_037.pdf
(2023.03.08)

高山憲之・白石浩介 (2017b)「年金と高齢者就業：パネルデータ分析」『年金研究』No. 6, pp. 38-100.

https://www.nensoken.or.jp/wp-content/uploads/NKEN06_038_100.pdf
(2023.03.08)

Coronado, J. L., Fullerton, D., and Glass, T. (2000) “The Progressivity of Social Security,” National Bureau of Economic Research Working Paper No.7520.

<https://www.nber.org/papers/w7520> (2023.02.28)

Oshio, T. and Usui, E. (2018) “How does Informal Caregiving Affect Daughters’ Employment and Mental Health in Japan?” *Journal of the Japanese and*

International Economies, Vol. 49, pp. 1-7.

Sato, K. (2017) “The Effect of Training on the Employment of Older Workers after Compulsory Retirement in Japan,” Panel Data Research Center Discussion Paper, DP2017-002, Keio Univ., Japan.

<https://www.pdrc.keio.ac.jp/publications/dp/2346/> (2023.03.16)

李珍・黄万丁 (2016) 「城镇职工基本养老保险个人账户向何处去」『国家行政学院学报』第 5 期, pp. 49-54.

5 その他

5.1 執筆者情報の掲載禁止

- (1) 投稿原稿に、執筆者が特定できる情報を記載しないこと。投稿者が執筆した論文を参考文献として記載する場合は、他の執筆者の論文と区別することなく、4.2 を参照して明示すること。
- (2) 投稿原稿へ以下の事項を加筆した上で論文を完成したいと考える場合は、掲載決定後に加筆を行う予定であることを投稿申出書により申し出ること。
 - ・ 科学研究費助成事業等、何らかの助成事業により研究費を得て論文作成に活用したこと
 - ・ 論文作成時に意見交換をして下さった方等への謝辞
- (3) 上記の事項以外に掲載決定後に加筆を行いたいと考える情報がある場合は、当機構へ個別に相談すること。

5.2 原稿様式雛型

以下の「『年金研究』雛型見本」部分をクリックすれば、原稿作成用ファイルの雛型見本のダウンロードがなされる。なお、この雛型見本は、執筆要領に基づき執筆者が独自に準備した磁気原稿の利用を妨げるものではない。

[『年金研究』雛型見本 \(Word: 29kb\)](#)

附則 この要領は、2023 年 10 月 1 日から施行する。